

釜ヶ崎講座 ニュース

No. 73号

発行日 2022/12/13

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋
2-9-12-202

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7
釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局電話 090-3823-9794

郵便振替 00940-1-132778

メール kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

ホームページ <http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

☆第56回釜ヶ崎越冬闘争が、開始されます！

釜ヶ崎講座は、期間中の新年2026・1月3日(土)に

「新春釜ヶ崎歩きツアー」を行います！☆

(2026新春釜ヶ崎歩きツアーのご案内)

日時 2026年1月3日(土) 午後12時30分から受付

受付・集合場所 釜ヶ崎日雇労働組合事務所前

(大阪市西成区萩之茶屋1-9-7)

出発時間 午後1時スタート(時間厳守でお願いいたします)

(受付は12時50分頃までに済ませておいて下さい。13時に出ます。)

案内人 水野阿修羅さん

参加費 500円(資料代含む) 事前申し込み不要

問い合わせは 釜ヶ崎講座事務局まで 090-3823-9794

主催 釜ヶ崎講座

以上

会員・読者の皆さん、釜ヶ崎講座です。日頃は釜ヶ崎講座にたいしてのご支援・ご協力ありがとうございます。また今回もカンパをいただき、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。今回、カンパへの御礼が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。「

「釜ヶ崎講座ニュースNO.73」を発行しました。今回ニュースでは来る「第56回釜ヶ崎越冬闘争」を取り巻く状況並びに、この間の釜ヶ崎講座がかかわった取り組み・行動の報告を簡潔に述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

第56回釜ヶ崎越冬闘争の取り組み状況

皆さん、「第56回釜ヶ崎越冬闘争」が12月28日夜6時の「越冬突入集会」を合図に、新年1月5日早朝、行政窓口が開く直前までの間、取り組まれます。

本年も越冬実行委員会は野営体制、人民パトロール、医療パトロールを柱とした闘争体制の構築で、1人の餓死・凍死者も出させない闘いを進めていきます。恒例の「越冬まつり」のスケジュールも、出そろおうと思います。実行委員会F・B等で確認ください。

さて先日12月9日には市・府との越年対策の話し合いが「ふるさとの家」でもたれました。主に釜ヶ崎労働者への「年末年始事業施策」の中身が議論されました。

この事業は長年日雇い労働に従事してきた釜ヶ崎労働者が年末に飯場が閉鎖されたりして、行き場のない状況が作り出される中、路頭に迷い、野宿、ひいては餓死、凍死につながる事態が生み出されてきました。そうした中で、運動側も自ら救護・支援体制を作りながらも、本質は労働者使い捨ての行政責任であることを問い続け、宿泊・居場所を要求し、「臨時宿泊」として形にしてきたものです。

当日の話し合いの中で市行政は昨年につき、年末年始に労働者が使える銭湯風呂券の廃止を一方向的に通告してきました。昨年において一部の銭湯業者の「苦情」を取り上げる形で労働者を銭湯から締め出し、人権を否定し、地域の分断・軋轢を強めるような態度を今年も相変わらず、取ってきています。許されることではありません。

また当日は、長年、釜ヶ崎労働者が汗水たらして働き、貯蓄してきた「あいりん銀行貯蓄金」の一部を労働者と地域に相談なしで市の医療対策資金（約2億円相当）に充当するという、報告も出ました。この貯蓄金の用途については、この間の釜ヶ崎における公的会議や話し合いのなかで、「用途については地域側と話し合い、決める」確約があるにもかかわらず、市独断によって決められたものです。

2013年以降、「釜ヶ崎特区構想」の具体的施策議論が、積み重ねられてきたわけですが、「地元住民との協議の蓄積によるボトムアップ型の街づくりや新センターの建設を図る」という合意を市・府行政自らが、放棄していく態度の表明と言わざるをえません。今後の私たち運動側の取り組みの強化が必要です。

(この項おわり)

これまでの釜ヶ崎講座の取り組みの報告

①「第54回釜ヶ崎夏祭り」が開催される

釜ヶ崎講座は「釜ヶ崎歩きツアー」を開催

2025年の夏も猛暑がつづき、その中において「第54回釜ヶ崎夏まつり」が8月12～15日に成功裏に開催されました。

釜ヶ崎講座は8月15日に恒例の「釜ヶ崎歩きツアー」を催行しました。

今「54回釜ヶ崎夏祭り」では12日の「前夜集会」に沖縄辺野古基地建設反対を闘う仲間、若狭原発に反対して闘う仲間、日本従軍慰安婦問題を問い続ける仲間、故・石川一雄さんの無実を確信し再審の闘いを担う仲間、そしてパレスチナ人民の正義の闘いに連帯する仲間たちが駆けつけ、それぞれの行動アピールと連帯の表明がなされました。

この4日間は「ステージライブ」や「のど自慢」「相撲大会」、各運動グループの「出店」などで賑わい、多くの労働者・住民・若者の参加で盛況でした。

また8月15日、祭り最終日の午後、「福祉支援者の集まり」メンバーを中心とした「生活相談会」が三角公園内で開かれ、生活困窮の諸課題への相談活動を担いました。

同じく祭り最終日の夕からは「慰霊祭」が執り行われ、様々な理由と変遷をかかえてたどり着き、長年働き続け、地域への貢献も果たしながら生涯をとじた仲間の鎮魂と追悼がおこなわれました。

釜ヶ崎講座は夏祭り最終日、15日に約30名の参加で釜ヶ崎歩きツアーを行いました。この日は主に釜ヶ崎地域内を中心に日中の暑さをさけて朝10時に出発しました。

今夏も関東、北陸、中国各地方など、広い範囲と多様な方々が参加してくださり、ツアー後の意見交換の席では多くの質問・意見が出ました。

質問・意見交換では地域で共生する外国籍の子弟の教育問題や高齢化が進む地域での生活の変化や問題への質疑がありました。

外国人子弟の各学校への入学と学習援護は進みつつある中、日本語学習の習得には機会のバラツキもあり今後の主要な課題としてあること。また高齢化の中での生保取得が常態化する中でも、就労の選択の機会の保証が重要で釜ヶ崎の特徴であることなどが共有されました。

今回アンケートの集約の中では「夏のツアーは午前中に定着化を、できればもっと早い時間に、休憩時間は欲しい」などご意見をもらいました。今後の参考といたします。

みなさん、ご参加有難うございました。また暑い中、水野さん、案内有難うございました。それから実行委員会に結集するみなさん、今夏もツアーへの協力と援助に感謝いたします。（この項おわり）

② 釜ヶ崎「福祉支援者の集まり」に参加して

多種・多様な事情をかかえ、釜ヶ崎には多くの人たちがたどり着く現実があります。

かねてより、きめの細かい伴走・密着型の支援を有するここ釜ヶ崎では、行政施策の福祉軽視・切り捨て（生保取得事情等に顕著に見られる）進行の中で、「新労働センター建て替え」に伴う相談活動のさらなる充実・必要性という課題が生まれてきました。それは「ワンストップ相談」という言葉に象徴される人の死活を解決する相談です。

そうした釜ヶ崎の事情の中で2021年暮れに「福祉支援者の集まり」が第1回の集まりとして持たれて以降、今日まで44回続いています。ここでは福祉領域にかかわる釜ヶ崎内での情報共有や就労への意欲のための学習会の設定など多種・多様な意見交換がはかられています。釜ヶ崎講座・前代表の渡邊さんは当初より参加し、歯科医師の立場で釜ヶ崎における歯科医療、結核に代表されるような予防医療の立場でのプレゼンを手がけています。

今の福祉支援者の集まりでの議論の中心は予算と規模縮小が言われる新労働センター北部分の機能の充実、そして地域で安心して暮らせるための「多様な仕組みづくり」に集中されているように思います。相談から生活の安定へ、「ここ釜ヶ崎へ来て、暮らしてよかった」を地道に実現していければと思います。引き続き、この集まりに釜ヶ崎講座は参加させてもらって勉強させてもらいます。（この項おわり）

○編集後記～

「住まいと暮らしSOS おおさか実行委員会」が精力的に相談・食料配布の活動を継続しています。

釜ヶ崎講座は「第6回ポンポコカフェ」（9月13日・西成区役所4F 会場）、「第15回食料配布&相談会」（11月23日・西成・三角公園）に取り組み参加しました。この各取り組みには、いつものように「歯科保健研究会・わたなべ往診歯科」メンバーの方々による歯科相談も参入しています。ところで女性・シングルマザーと子を主として受け入れる「ポンポコカフェ」では、直近の「第7回ポンポコカフェ」（12月6日・西成区役所4F）では外国籍の人の来場がグンと増えたと聞き、暮らしの手立てと解決を希望する外国籍の人々の現実が反映されているかな、と感じています。共に悩み知恵を生み出せる取り組みの中で、助け合える社会の実現を。釜ヶ崎講座も微力ですがパワーをだしきりたいです。～（K）

◆釜ヶ崎講座からのお知らせ◆ 日頃のご支援に深く感謝いたします。釜ヶ崎講座は皆さんのカンパにて運営をさせてもらっております。今回も振込用紙を同封させていただきました。厳しい世相の中ではありますが、皆様のご厚意を宜しくおねがいいたします。（講座事務局）